

TOP COMMITMENT

「創造 貢献」の経営理念に基づき 社会から必要とされる企業であり続けます。

取締役社長

梶尾 和雄

Kashio Kazuo

「0→1」を生み出すカシオのDNA

カシオはこれまで、まったく世の中のない製品を開発し、そのことによって新しい市場と文化を創造して来ました。これが創業以来繰り返され、カシオのDNAとなって定着しています。

カシオの創業は、53年前の1957年、外国製の電動機械式計算機が日本市場を席卷していた時、世界で初めての小型純電気式計算機「カシオ14-A」を開発したことによります。この計算機は、圧倒的に静かで演算速度も早く、小型であったことから、瞬く間に計算機市場に浸透しました。



以来、カシオは演算素子の進化とともに新たな計算機を開発し続け、1972年には現在の電卓の元祖となった世界初のパーソナル電卓「カシオミニ」を開発しました。これにより、電卓はオフィスで仕事に使う道具から家庭で個人が使う道具として進化し、瞬く間に普及しました。このように、カシオはまったく新しい概念の計算する道具を社会に提供することで、人々の生活文化を変えてきました。

時計も同じです。宝飾品と同じ扱いであった時計をプラスチックのケースに入れ、時刻に関するさまざまな情報を提供するデジタル時計として世の中に送り出し、壊れやすい時計をあらゆる生活シーンで使える道具に進化させました。この最たるものが「G-SHOCK」であり、今や全世界で高い支持を得ており、単一ブランドとしては世界一の販売個数となっています。

楽器にしても同様であり、高度に練習を積んだ人にしか出せないアコースティック楽器の音を、誰でもが手軽に出せるようにしたいという思いから、鍵盤を弾くだけでさまざまな音色を出せる電子キーボードを開発しました。これが世界的に普及し、新たな市場ができました。

最近ではカメラです。カシオは1995年に世界で初めての液晶モニター付きデジタルカメラを発売しました。このカメラは画像をデジタルで保存できることから、パソコンに画像を取り込む手頃な機械として、瞬く間に普及しました。今ではフィルムを使わないカメラが当たり前になっています。

これらはすべて、「早くこういう製品を出して欲しい」というユーザーの希望に基づいて創られたものではありません。カシオが開発し、社会に提供したことによって初めて、これは便利・面白い・環境に良いと消費者の方に支持されるようになった製品です。

カシオはこうした、今までは世の中に存在しなかった製品を開発し、それを身近な道具として提供することで、人々の生活を便利に豊かにするとともに、新しい文化を生み出してきました。これがまさに、経営理念である「創造 貢献」の実現であると考えています。

経営体質を強化し、経営理念を実現し続ける

いわゆるリーマンショック後の世界同時不況の影響により足元の業績は悪化していますが、カシオは選択と集中によって事業構造を見直し、業績の回復につなげていきます。

具体的には、2010年4月1日付でTFT液晶事業を凸版印刷様との合弁事業に移管しました。これは、この事業が巨額の投資を続けられる企業だけが生き残れる事業構造になっており、単独で事業を継続するには大きなリスクを伴うためです。また、同年6月1日付で携帯電話事業をNEC様との合弁事業に移管しました。この事業も、1機種の新製品開発に膨大な開発コストがかかる上、国内市場は成熟しており、投資に見合う販売台数を確保することが難しくなっている他、海外市場には巨大な競合企業がひしめいています。従って、このように有力なパートナーと提携し事業統合を行うことで、1+1が2以上となるように投資効率を高め、相乗効果を発揮していくことを目指しています。

一方で、従来から高い利益率をもつ基盤事業はさらに業績を拡大していきます。時計・電子辞書・楽器・システム機器などは、カシオが長年手掛けてきた事業です。開発と営業の部門が一体となり、より効率的に競争力のある製品を開発すること、並びに、海外市場においてさらに木目の細かい販売活動を展開することで、売上の安定的な拡大と利益率の向上を目指していきます。

また、業績拡大の鍵を握るのがデジタルカメラ事業です。この事業も、カシオが世界で初めて液晶モニター付きデジタルカメラを発売したことから発展した市場です。しかしながら、現在ではコンパクト型デジタルカメラの国内市場は飽和状態にあり、1台あたりの製品単価も低下傾向にあります。カシオではハイスピード技術、動画合成技術など、新しい機能を搭載した製品を提供することで、さらに新しいカメラの楽しみ方を提案し、デジタルカメラ市場の掘り起しを行い、画像文化の裾野を広げていきます。

その他、新規事業も積極的に推進します。これまでカシオは、数字、

時間、音楽、写真などをすべてデジタル化することで、新たな市場と文化を開拓してきました。現在では、これまで蓄積した技術とノウハウを活かし、絵画のデジタル化に取り組んでいます。

カシオは、いつの時代でも皆様から「カシオらしい」と言っていただけるような製品開発を通じて、市場と文化を創造し、経営理念を実現していきます。まさに、これこそがカシオが社会に存在する意義であると思います。これからも、社会から評価され、愛される会社として存続することを目指します。

そして、事業活動を進めるに際しては、ステークホルダーの皆様方とのコミュニケーションを通じて、社会からの要請を真摯に受け止めるとともに、社会そのものの変化を敏感に見極め、これに適切に対処することで社会とともに進化していきたいと考えています。

特に環境面に関しては、地球温暖化が最大の懸念事項と認識しています。カシオでは、グローバルな事業活動における温室効果ガスの排出総量の中長期削減目標を設定し、従来までの取り組みをさらに加速して推進していきます。